

# 知的障がい教育における**図画工作科・美術科**を指導する時のポイント 「造形的な見方・考え方」とは？

特別支援学校学習指導要領解説各教科編(小学部・中学部)、特別支援学校学習指導要領解説教科等編(下)(高等部)において、下記のように示しています。

## 【小学部：図画工作科】

造形的な見方・考え方とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージや価値をつくりだすことであると考えられる。

(下線部は相馬支援学校による)



一つひとつ、言葉を確認してみましょう。

## 【中学部・高等部：美術科】



造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じる取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。

(下線部は相馬支援学校による)

高まる学び

## 「造形的な見方・考え方」

【感性】様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なもの。

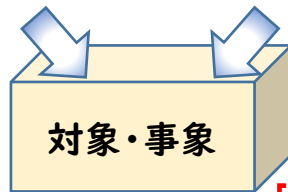
【感性】  
【想像力】

働かせて

【想像力】全ての学習活動において、児童生徒が思いを膨らませたり想像の世界を楽しんだりすること。



よさや美しさなどの価値や心情を感じ取る力



### 図画工作科

【造形的な視点で捉える】

具体的には、「形や色など」、「形や色などの違い」、「形や色などの感じ」などであり、学習活動により様々な内容が考えられる。



自分のイメージや価値をつくりだす!!

### 美術科

【造形的な視点で捉える】

造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点



自分としての意味や価値をつくりだす!!



視点で捉える



あとは、この要素が展開されるような単元構想を考えるだけ!次ページで紹介!

実践!

小学部 生活単元学習「はるをさがそう」: 図画工作科での学びから

ポイント1 生活科「生命・自然」領域での学びを導入に位置付ける!!



【児童の様子】

探検カードで探す対象のカエルを黙々と探す。3匹見つけて、袋に入れて学校に持ち帰る。また、アリの巣を見つけ、穴をツンツンつづく。アリが巣からたくさん出てきた!!「わあ!!」繰り返し行う。



ポイント2 生活科での学びとの関連を図り、効果的に「図画工作科」を合わせる!!

本人は、描きたい対象として、学びを関連させて、カエルとアリを選択する



アリ、たくさんいたなあ。たくさん出てきたなあ。



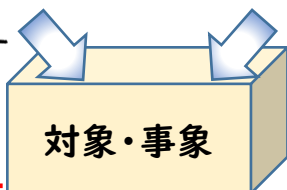
【感性】  
【想像力】

働かせて



カエルをつかまえたなあ。緑で見つけにくかったなあ。

生き物とのかかわり【感性】【想像力】を働かせて



造形的な視点をもたせる...

春の生き物を実際に見せる、触らせる、においをかがせるようにする。  
写真を拡大して提示し、色や形を捉えられるようにする。



アリとカエルで色が違ったなあ。

視点で捉える

自分のイメージや価値をつくりだし始める!!



【児童の様子から】

まず、緑でカエルを描く(形はカエルとは見えない)。その後、黒が緑をどんどん覆っていく(教師はハラハラ。せっかくのカエルが!しかし、しっかり理由があった!)。彼の口から出た言葉は「アリ、アリ、アリいっぱい!」大きく手を広げるジェスチャー付き!捕まえて学校に連れて帰ったカエルと、つづいた巣からたくさん出てきたアリを表現して楽しむ様子が見られました。

つくりだす楽しさに気付く!!



知的障がいのあるこどもたちが、形や色などの感じを捉えながら、対象や事象を心に感じとり、思いを膨らませ、子どもそれぞれが自分のイメージをもって意味や価値をつくりだせるようにする単元構想が必要です。